



光多 長温

都市化研究公室理事長

今年、明治維新150年に当たる。NHK大河ドラマ「西郷どん」で西郷隆盛の新しい姿が描かれ、京都をはじめとして各地で記念事業が実施されている。

日のが国を形づくる壮大な作業が深く静かに行われた。明治10年時点のわが国を取り巻く環境は、条約の府県制・郡制等による中央と地方制度の創設、

公共調達の分野はわが国では全く未踏の分野といっても過言ではなかった。江戸時代までの普請の大半は將軍家・各藩をはじめとする大名の工事であり、いわば個人事業であった。明治会計法における公共調達の基本は、江戸時代からの請負制度をベースとして、これにフラン

明治維新150年と「国の形」

明治維新の歴史は、明治21年の大日本帝国憲法制定、23年の帝国議会の開設を一つの節目とする

改正交渉、韓国・清国・ロシア等諸外国との緊張関係等、厳しいものであった。先進国の仲間入りするにしても法体系の整備一つない状態であり、何はともあれ憲法を持つていない国は先進国の仲間入りできないとして、帝国憲法の制定をはじめとして法律体系の整備に着手した。そして、明治21年の大日本帝国憲法の

が、それまでの20年間は前半と後半とはかなり趣が異なる。前半の10年間は、戊辰戦争、版籍奉還、廃藩置県、岩倉具視使節団、地租改正、西南戦争、紀尾井坂の変と目まぐるしい。

その後、民法(明治29年)、ス、ベルギー、イタリアの制度を参考として成立したものである。これら(指名競争入札制の導入等)、戦後の連合国軍総司令部(GHQ)による改正を経るが、基本的な骨格は明治時代のままである。第2次大戦後、憲法、民法等は大きく修正されるが、国と地方関係、公共調達関連の基本は明治時代のままである。

の後の10年間は表面上はやや静穏である。しかし、この10年間において、今

中、政府内部での予算、決算の仕組みを定めたもまた、予定価格制度(調達の場合は上限拘束性)が導入されたが、これは、

現在の、明治維新时期にわが国を取り巻いていた条約改正や対外問題等の時代環境は大きく変化している。その中で、道州制や府県合併等の議論はなされるものの中央と地方の関係は依然中央集権的な制度が続いている。また、公共調達制度においても、民間の経営力・技術力の導入を通じて効率化が推進されているが、骨格は明治時代のままである。ちなみに諸外国で上限拘束性を持った予定価格制度を採用している国はなく、わが国独特の公共調達制度は当該分野への外国資本算入障壁ともなっている。